

# 非営利法人ニュース

2018年  
7・8月合併号  
Vol. 66



発行 公益総研 非営利法人総合研究所  
東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル  
TEL 03-5405-1811 / FAX 03-5405-1814  
編集協力 (特非)国際ボランティア事業団・(公財)公益推進協会・NPO法人設立運営センター

## ★★★ お勧めセミナー情報 ★★★

### 【1】NPOが得か？社団が得か？法人設立セミナー

\*どの法人格が向いているのか、メリットとデメリット・税制の違いなどを説明

- 講師 福島 達也  
(田園調布学園大学講師・(特非)国際ボランティア事業団 理事長)
- 日時 2018年8月29日(水)  
午後2:00~4:00(受付1:45~)
- 会場 東京都港区新橋6-7-9 新橋アイランドビル1階会議室  
(新橋駅烏森口より徒歩8分・御成門駅より徒歩5分)
- 定員 先着8名まで 徹底指導(最少催行人数3名)
- 受講料 3,000円(1名分・税・テキスト代含む) \*事前振込



◎情報満載！今月のもくじ◎

セミナー&助成金情報	1
非営利法人関連情報	2,3
CEOコラム	4
編集後記	4

## ★★ (公財)公益推進協会から助成金のお知らせ ★★

### ◎ J M 基金

□目的:こどもの心と体の健やかな成長を願い、子ども社会に格差ない「平等の機会」を支援することを目的に作られました。この基金では、そのような子供たちに無料で食事の提供をしている団体・個人に対して本基金では活動の支援を行います。

- 助成対象:日本全国において食事支援活動を行う団体・個人で以下の要件を満たすもの。
    - 1 こどもに対して無料の食事支援活動を行なっているもの
    - 2 1年以上且つ、毎月1回以上の食事支援活動を約束できるもの
    - 3 営利目的でない事業であること
  - 助成件数:2018年は10団体程度
  - 助成額:1団体あたり 30万円(上限) 補助率の制限はありません。
  - 応募手続き:応募用紙は、当財団ホームページ(<http://kosuikyo.com/>)よりダウンロードし、必要事項を記入した応募用紙と添付書類(事業計画、見積書及び予算書など)を郵送してください。
  - 募集期間:7月2日~8月31日(お早めにご応募ください！)
  - 選考方法・助成金の交付方法・助成決定者の義務等の詳細:当財団ホームページを参照。
- \*問合せ先\* (公財)公益推進協会 TEL03-5425-4201 担当:高野

### ☆セミナー&助成金申込方法☆

#### 【1】NPOが得か？社団が得か？法人設立セミナー

→特定非営利活動法人  
国際ボランティア事業団  
TEL 03-5405-1813  
FAX 03-5405-1814  
メール npoinfo@iva.jp

- 必要事項
  - ①参加日
  - ②参加者氏名
  - ③団体名
  - ④案内送付先郵便番号、住所
  - ⑤電話
  - ⑥ファックス
  - ⑦メールアドレス

#### 【2】助成金

応募用紙等郵送先  
〒105-0004  
東京都港区新橋6-7-9  
新橋アイランドビル2階  
(公財)公益推進協会  
JM基金  
担当 高野宛 以上

## こんな補助金知ってますか？ 助成金申請は公益総研 丸山研究員におまかせあれ

前回に引き続き「IT導入補助金」をご紹介します。IT導入支援事業者によりあらかじめ事務局に登録されたITツールの導入に関する費用について補助してもらえ補助金で、補助率は1/2、上限は50万円、下限は15万円です。第三回が「8月中旬」からスタートします。IT補助金は簡単に言えば「ウェブサイトの作成にかかった費用を補助金で半分返ってくる」などというものです。このIT補助金ですが今年が大盤振る舞いなので、今年はチャンスです。そのための加点申請があります。つまり下駄を履くのです。それが「おもてなし認証」「経営力向上計画」の二種類です。経営力向上計画は事業計画をローカルベンチマークに合わせて作っていくのですが、一人では大変なので、専門家である我々と共に実行力有る商品を開発するのが目的です。各企業がかかる現状は異なります。それを、認定支援機関である「行政書士 丸山」が支援し共に作成していくこととなります。この計画をもってIT補助金の申請を行いましょ。是非お気軽にお声かけください。

### ☆助成金申請のご相談先☆

公益総研株式会社  
TEL 03-5405-1811  
FAX 03-5405-1814  
メール: souken@iva.jp  
HP: <http://www.iva.jp/nposouken/>





公益総研株式会社 首席研究員兼CEO  
公益財団法人公益推進協会 代表理事  
(特非)国際ボランティア事業団 理事長 福島 達也

2月号のこのコラムで、オリンピックでのスピードスケートの小平選手のことを、「日本人の奥ゆかしさが素晴らしい」として皆様に感動をお伝えしたのは今から5か月前のことである。開催地・韓国の国民的英雄である李相花（イサンファ）選手の「五輪3連覇」が未完に終わった瞬間、金メダルが確定した小平選手が韓国国旗（太極旗）を手にしながら泣きじゃくる李の姿を見つけ、李選手のそばにそっと近づき、なんと彼女を労わるような表情でギュッと李選手を抱きしめたあのシーンである。「日本人でよかった！」と誰もが思った瞬間であった。

が、しかし、今回はその全く逆のことが起こったのである。

そうそれは、今回のサッカーのワールドカップ大会の日本対ポーランド戦である。この試合で勝つか引き分ければ、日本は悲願の決勝進出というあの試合だ。夜遅くではあったが夜中ではないため、日本人であれば大人も子どももみなテレビの前に釘付けだったことだろう。しかし、この試合で事件は起こった。

セットプレーから失点した日本が1点を追っていた80分過ぎ、他会場ではコロンビアが先制し、そのまま試合が終了すれば、セネガルとフェアプレーポイントの差で日本は2位通過が可能とわかった瞬間である。なんと残り10分以上もあるというのに、監督からの指示によって、日本は自陣でゆっくりとボールを回し、まったく攻撃に出ることはせず、0-1でわざと負けたのである。結局、コロンビアがセネガルを下したため、決勝トーナメント進出を果たした日本だったが、試合終盤のリアリスティックとも言える振る舞いには、世界中から非難の声が殺到した。

この大会はここまで、日本の戦いは本当に素晴らしかったと思う。しかし、このラスト10分の展開は全くもって恥ずかしいし、W杯では見たくない茶番劇だったから、多くの子どもたちには絶対に見せたくなかったし、マネしてほしくない光景だった。日本人であることが恥ずかしいと思った瞬間である。

もちろん、悲願の決勝トーナメント進出という結果を追い求めたなかでの、究極の選択だったし、それで現実決勝トーナメントでは、負けたとはいえ強敵のベルギーに善戦したことを思えば、それはそれで評価できるのかもしれない。そして、なぜか日本のマスコミもそれほど批判していない。だが、お隣の国の話ではなくサムライ（武士）をイメージにしている日本がこうしたアンフェアなプレーを行うというのはいかがなものだろうか？

勝てば官軍とばかり、サッカーファンはそれほど重視していないようだが、私は嫌だ。

サッカーばかりではない。プロ野球でも、終盤になると必ず問題になるのが首位打者争いだ。

ある選手が最後の方で打率を上げ首位に躍り出ると、必ずそのあとの試合を休む（または守備のみ）という行為がよくある。このような行為は日本のプロ野球では昔から行われていて、これは当然のこととして行われており、それほど物議をかもしてはいない。しかし、一方、アメリカ大リーグに目を転じると、全く逆の現象が生じているようである。上記のような日本のプロ野球のごとき行為にはまずお目にかからないし、このような行為はフェアプレー精神に反し恥ずべきものとされている。かの昔、テッドウィリアムス選手が1試合を残して4割ジャストをマークしていた時、監督がその試合を休むことを進言したが、テッドウィリアムス選手は敢然として出場し、多くの安打を放ってさらに打率をあげ、最終打率を4割6厘としたことなど、外国の方がよっぽど潔いサムライ魂という感じだ。

これらのフェアプレー精神やその根本である文化は、それぞれ人種の相違、各国の歴史、宗教などの相違に起因しており、このこと自体は各国、各国民の個性の現れであり、尊重すべき事項ではある。しかしながら、国際化（グローバリゼーション）はますます進み、国家間の垣根が低くなってきて国際交流が進展する中、外国での評価や常識にも目を向けないといけないと思う。それなのに、勝つためには手段を採ばないという手法が蔓延しているのが気になる。

なぜだろう？ そうだ、その原因は日本の政治だ！ 前回の総選挙を思い出してほしい。

民進党が離党騒ぎでドタバタだし、小池新党はまだ候補者もほとんど決まっていなほど準備不足だった。その上、北のおぼっちゃま君がミサイルを発射し続け、核実験をすればするほど、国民は右翼的な傾向が強まっていたあの時期。

さらに、モリ・カケ問題で窮地に追い込まれ、支持率が急降下してしまった自民党が、勝てると思ったら今しかないとはばかりに、全くの大義名分もなく、突然解散総選挙をしてしまった、あの安倍ちゃんの暴挙のことだ。勝てば手法は選ばないというのは政治家がそのお手本だったのである。情けない・・・さらに、不正を隠し続ける経済界も同じ穴のムジナだ！ 政治・経済・スポーツ、どうしてこうなっちゃったのであろう・・・

魯迅の言葉に「打落水狗（水に落ちた犬を打つ）」がある。これは、既に打ち負かされたがまだ降参していない悪人を更に追い打ちをかけてやっつける・・・という意味で政治家や経済界では大変評価されている言葉だが、勝つためには手段を選ばない「勝てば官軍」という風潮は、このころからあるのかもしれない。

だが、我々非営利分野で生きる者は、絶対に「溺れた犬は助けて保護する（困った人に手を差し伸べる）」。それが本当のフェアプレーなのだ。今回の西日本を襲った大雨の被害者の方のご冥福を祈りつつ、特にその意味をかみしめたいと思う。

\*編集後記\*

最近、知人が乗馬を始めたので見学に行ってきました。なかなか思い通りに動いてくれないことも多く苦戦しているように見えたのですが、徐々に指示を聞いてくれるようになるのが嬉しいとの事でした。私の方は高いところが苦手なので乗馬ができなくて残念ですが、エサをあげたり、自由に触ってもよかったので、それだけでも十分楽しめましたし、日々の疲れが癒されました。ホースセラピーの効果を感ずることができた1日でした。

(たま)